

平成 27 年 1 月 29 日
舞鶴市教育委員会

いじめの実態把握について

1 目的

本市の重大な教育課題である「いじめ」に対し、いじめの未然防止といじめを許さない学校づくりを進めるため、いじめの早期発見・早期対応に活かしながら児童生徒のよりよい人間関係づくりに努めることでいじめの根絶を目指す。

2 基本的な考え方

文部科学省の示しているいじめの定義「一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的苦痛を感じているもの」をもとに、児童生徒の目線で実態を把握し、いじめの早期発見・早期対応、未然防止につなげる。

3 対象

市内小学校 18 校 4,685 人、中学校 7 校 2,521 人、合計 7,206 人

4 取組期間

平成 26 年度 2 学期

5 取組の概要

- (1) いじめアンケートの実施（2 学期始業式以降のいじめ調査）
- (2) 全児童生徒との面談
- (3) いじめ相談室相談員の小中学校訪問（随時）
- (4) 人権教育授業研究会の開催（いじめ問題解決に関する授業）（10 月 31 日実施）
- (5) 各学校の人権教育旬間（月間）の取組（12 月頃実施）
- (6) いじめ・不登校対策会議の開催（1 月 28 日実施）

6 調査結果

※平成26年6月、平成26年12月調査

	小学校		中学校		合計	
	6月	12月	6月	12月	6月	12月
(1) 困ったことがあると答えた人数	784	732	187	140	971	872
(2) (1)のうち、引き続き指導や支援を要する人数 (6月：1学期末、12月：2学期末時点)	4	4	9	6	13	10

困ったことがあると答えた件数 (①～⑨の合計)	1098	948	265	187	1363	1135
① 冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	435	378	114	85	549	463
② 仲間はずれ、集団による無視をされる。	123	75	18	9	141	84
③ 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	217	190	50	26	267	216
④ ひどくぶたれたり、叩かれたり、蹴られたりする。	80	77	21	17	101	94
⑤ お金や物を持ってこいと言われて困る。	24	26	4	3	28	29
⑥ 自分の持ち物やお金を隠されたり、壊されたり、捨てられたりする。	81	67	19	21	100	88
⑦ 恥ずかしいことや危険なことをされたり、させられたりする。	70	52	11	13	81	65
⑧ パソコンや携帯電話で、誹謗中傷や嫌なことをされる。	5	3	16	6	21	9
⑨ 上記以外のいじめ	63	80	12	7	75	87

7 結果について

「困ったことがあると答えた人数」については、小学校732人(6月比52人減)、中学校140人(6月比47人減)、計872人(6月比99人減)となっている。

いじめの態様については、ほとんどが「冷やかしやからかい、悪口」「軽くぶつかられる」という内容であった。小学校では、主にお菓子など「物を持ってこいと言われて困る」が微増である。「パソコンや携帯電話等による誹謗中傷や嫌なことをされる」は減少したが、ネット利用するときのマナーの指導については、今後とも小学校の時から徹底しなければならない。また、保護者に対してもパソコンや携帯電話等による被害の実態を知らせ、小学校の段階から保護者啓発を継続して行う必要がある。

引き続き指導や支援を要するいじめについては、いじめ相談室がかかわりながら解消に向け取り組んでいく。また、今後とも、本市及び各学校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見早期解決の取組を推進する。

2学期末時点における指導を継続している例

小学校

内	容
本児の行動に対し同じ学級の児童からの言動（注意がきつい、集団で責める、こそこそ話）が気になり指導を重ねている。本人はアンケートには何も書いていないが、教員が見て気にかかるのであげている。	
周囲の児童の本児に対する理解が弱く、本児への言動について繰り返し指導を行っている。本人はアンケートには何も書いていないが、教員が見て気にかかるのであげている。	
本児は、周囲からきつく言われ、叩かれることがあった。指導によりいじめは解消しており、気の合う友達もいるが、活発な児童の言動に傷つきやすい面があり、注意して見守っている。	
男子児童が教室で悪口を言われた。指導以降、本人への悪口は見られないが、ある児童の言動や学級内の雰囲気になんか不愉快な思いになったり、嫌なことを言われるのではないかと心配したりし教室に入りにくい様子や登校を渋る様子が見られる。家庭訪問や別室登校等継続し、担任及び養護教諭が保護者と連携し、本人へのケアに取り組んでいる。	

中学校

女子生徒が、アンケートに「仲良くしていた女子生徒に一人にされた、無視された、嫌なことを言われた」と記述していた。面談で状況を確認し、継続して見守っている。その生徒との仲直りはできていないが、直接的な嫌がらせなどはなく、別の親しい友達もおり楽しい学校生活を送っている。	
女子生徒は、昨年度からラインへの悪口の書き込みが原因でトラブルが起きることがあり注意して見てきた生徒であるが、本人と悪口を言った生徒への指導により、トラブルは解消しているが、見守りや本人のケアに取り組んでいる。最近本人が困っている様子はなくなり、部活の朝練習に参加したり、体育のときなどは周囲からの声かけもあり一緒に活動している。	
男子生徒が、同じ学級の男子生徒からかわれたり、わざとぶつかられたりした。また、その時の反応を見て周りの生徒がおもしろがっていたことが分かった。該当生徒及び周囲の生徒を指導するとともに、注意して見守っている。	
男子生徒が、同じ部活動の友人から「消えて欲しい」と陰で言われたと訴え、そのことが心の中に残っている。具体的ないじめの状況は確認できないが、希望進路実現に向け前向きに学校生活を送れるよう丁寧なかかわりと励ましが必要であり、注意して見守っている。	
女子生徒が、女子生徒とのトラブルがあり、生徒から状況を聞き取り双方の生徒・保護者とで話し合いの場を設けいじめは解消しているが、保護者に不安感が残っている状況がある。担任、生徒指導担当者を中心に家庭訪問など組織的に働き掛けを行っている。	
昨年より、女子生徒が複数の男子生徒から「からかい」を受け、欠席や登校しぶりがあった。本人に話を聞き、からかった生徒への指導した、現在は具体的ないじめ行為はないが、本人の不安感が強く、休みがちである。大人が寄り添い、丁寧に関係を作ることが必要と考え、保護者と連携を図り、家庭訪問で個別支援（交換ノート、学習など）を行っている。	